

## 会議要旨

会議の名称	令和7年度 第2回おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議	
日時	令和7年11月17日（月曜日）10時30分から12時00分まで	
場所	おいらせ町役場本庁舎 庁議室	
出席者等	委員	【出席者】（8人） 平井 太郎（会長）、木村 紀子（副会長）、関 和洋、三浦 広宣、 高田 雅史、松崎 理恵、大沼 可奈、和田 茂憲  【欠席者】（3人） 槇 公彦、佐藤 豊、高村 太
	事務局	政策推進課 課長 田中 貴重、課長補佐 川原 真栄子、主任主査 馬場 祐二
傍聴者数	0名	

### 1. 開会

※事務局の進行で開会。（10：30）

### 2. 委嘱状交付

委員を代表して、弘前大学大学院 平井教授に委嘱状が交付された。

### 3. 町長あいさつ

発言者	発言内容
成田町長	<p>おはようございます。今日は悪天候の中お越しくださり、そして、おいらせ町まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員もお引き受けくださりまして心からお礼申し上げます。また、新たに公募で委員になられました3名の方々についても、初めての町の会議委員かもしれませんが、これからもよろしくお願ひします。さて、現在日本は人口減少、高齢化社会を迎えたと報道されていますが、おいらせ町は人口を維持し、少子高齢化もまだ進んでいません。私にとって自慢できるまちだなと思っていますが、いずれは人口減少が始まるものと予想しています。当町にも百石高校がありますが、定員より志望者が少ない状況が続いています。当町は特に小中学生が2,000人以上と多い割に、なぜ百石高校への志望者が少ないことが気になっていました。これからは、志望者増加に向け、特に高校のPRや魅力発信が重要ではないかと感じています。例えば、有名な料理家や先生を臨時でも良いので、食物調理科に講師として呼んだり、有名な予備校の先生等呼んで、生徒の進学を進路を広げたりと、この会議で自由に意見交換をしていただけたらと思います。続いてお年寄りの話になります。当町には65歳以上のお年寄りが約7000人いますが、75歳以上のお年寄りはその半分の3500人以下です。65歳～75歳までの10年のうちに半分になってしまうということは、寿命以外に健康上にも原因があるのではないかと感じていますので、町では町民の皆さんが健康長寿でいられるよう、担当課職員や保健師達が頑張っております。そのような積み重ねを続けることで、10年後のおいらせ町の人口も25000人を維持できるのではないかと思います。現在も全国的に若い世代を中心に人口の東京一極集中が続いており、各市町村で人口減少対策や地域活性化の取組を進めていますが、市町村ごとに対策や取組は違います。皆さんの自由な発想をたくさん提案していただき、実現できるものは実現してきましょう。そのような会議になれば、ますます良いおいらせ町になりますので、ご協力をよろしくお願ひします。</p>

4. 案件	
案件に入る前に、委員と事務局の自己紹介を行った。	
(1) 会長・副会長の選任	
発言者	発言内容
事務局	案件に入ります。会議資料の2ページをご覧ください。会長決定までの進行は町長が行います。
成田町長	会長、副会長は条例により、委員からの互選となっております。まずは皆さんの方から立候補等はありませんか。
委員一同	なし
成田町長	ないようなので、事務局案でもよろしいでしょうか。
委員一同	異議なし
成田町長	ありがとうございます。では事務局案をお願いします。
事務局	本会議は、これまでファシリテーターを兼ねて、学識経験を有する方が会長を歴任していました。よって前回から引き続き、弘前大学大学院の平井太郎教授を会長案として提示します。
成田町長	事務局案が提示されました。平井教授に会長をお願いすることによろしいでしょうか。
委員一同	異議なし
成田町長	平井教授、よろしくをお願いします。
事務局	ここで、成田町長は公務のため、退席させていただきます。ここからの進行は、平井会長をお願いします。
平井会長	皆さん、自由に意見を発言いただき、良い町にしていきたいと思います。よろしくをお願いします。では副会長の選任に入ります。どなたか立候補はありませんか。
委員一同	なし
平井会長	ないようなので、事務局案をお願いします。
事務局	副会長は、出席者の中から、百石高校の木村校長を事務局案として提示します。
委員一同	異議なし
平井会長	副会長は木村校長をお願いします。

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略について	
発言者	発言内容
事務局	<案件(2)まち・ひと・しごと創生総合戦略について、会議資料3ページを説明>
平井会長	何か質問や感想はありませんか。
委員	先ほど、おいらせ町の人口が横ばいと伺っていたのに、30年後に5000人も減ってしまうことに驚きました。なぜでしょうか。
事務局	5年度ごとの国の推計を基に策定した町の人口ビジョンによると、2030年のおいらせ町の人口は20100人となり、約5000人の減と予測しています。しかし、これまでの5年ごとの国の推計だと、おいらせ町は既に人口が減少している予想ですが、現在も人口が横ばいを維持している状況です。
平井教授	全国的に現在は生まれる子供よりも亡くなる人の方が多い状況にあり、それが原因で人口減少しているという状態です。おいらせ町も今から30年ほど前から転入者の増加から始まって、その転入者たちが現在60～70代の高齢者になっている状況になります。今までのペースで、ずっと若い子育て世代が町に転入し続けていくことは難しいという前提に考えられた人口ビジョンになります。
事務局	青森県の人口推計も提示されており、現在は123万8000人ですが、30年後の2052年には75万人まで減少する予測となっております。青森県自体の人口も123万人から75万人まで減少することを考慮して、おいらせ町の人口も予測しています。詳細は今後の戦略会議で説明していきたいと考えております。
委員	人口について、青森県の出生数は、昭和25年は4万5000人、去年は約5600人、今年は5000人切るか切らないかという状態です。最盛期の9分の1まで減少しているので、人口が減るのは当たり前だと思います。おいらせ町は、三沢市で働く自衛隊員や米軍基地従業員等の影響や土地が三沢市に比べて2分の1なので住みやすいという声もあり、その理由で人口が増えているのだと思います。特に北部地区の人口が増えているため、おいらせ町の人口が維持しているのだと思いますが、さすがにこれからは人口が減っていくと思います。しかし、町の給食費無料や子どもの医療費無料等の事業は、子育て世代を支える重要な事業だと感じています。
平井会長	国平均よりも青森県の平均寿命が低い状況にあります。そこをどのように改善していくか、どのようにおいらせ町と連携していくかも一緒に考えていかなくてはなりません。今日の資料は持って帰っていただいて、ご不明な点がありましたら、また随時連絡していただければと思います。よろしく申し上げます。

(3) 昨年度の活動（これまでの経緯）について	
発言者	発言内容
事務局	<案件（3）昨年度の活動（これまでの経緯）について、会議資料4ページを説明>
平井会長	委員の仕事をご説明します。この総合戦略の会議は、各市町村に設置されています。大枠として、町の人口をどうしていくのかという人口ビジョンに基づいて、様々な政策を総合戦略としてパッケージにしています。そのパッケージについて、定期的に現状の達成度を評価して、改めるべきところは改めていくということが制度で組み込まれています。その点を皆さんにご審議をいただき、様々なご意見をいただくことをお願いしたいところです。しかし、細かく実施していくと時間もかかり、とても難しい議論になってしまうため、基に立ち返り、目標人口である20100人を維持できるように意見交換するような会議にしていきたいので、よろしくお願ひします。

(4) おいらセラボについて	
発言者	発言内容
事務局	<案件（4）おいらセラボについて、会議資料6ページを説明>
平井会長	おいらセラボは、委員の中から数名で構成された通常の会議とは別の意見交換の場を設けて、町がこうなったら良いなとか、こうできたら良いなという想いをお話ししていただき、実現に向けて動いていくという会議です。昨年度は、他の市町村の事例を調べてきてもらい、似たようなアイデアと組み合わせながら形にしていくということを実施しました。政策推進課の皆さんも熱心で、おいらセラボのアイデアを役場の担当課に繋いだり、政策推進課で検討してくれたりと動いてくれます。素晴らしいと感じたのが、昨年提案事項も、役場内のほか、八戸圏域連携中枢都市圏や青森県にも繋いでいただき、さらにはイオンモール下田や下田タウン株式会社にもご協力いただきました。また政策推進課からも、公共交通やデジタルデバイト対策の検討課題をもらい、部員と意見交換をしました。今年も空き家を活用した交流拠点であるしもくばを展開したところ、早速百石高校の木村校長先生が高校生に紹介くださり、高齢者向けのスマホ講座を実施しているようです。このおいらセラボは、地域の住民や団体と様々な主体がつながり、アイデアのキャッチボールをしながら相乗的に進めることができる素晴らしい場だと思っています。少しお時間を取られるかもしれませんが、ぜひ部員に立候補していただければと思います。
事務局	後日、文書で部員を募集しますので、ご検討ください。またご質問とかありましたら、電話やメール等で事務局にご相談ください。

(5) 今後のスケジュール	
発言者	発言内容
事務局	<案件(5)今後のスケジュールについて、会議資料10ページを説明>
平井会長	11年前にまち・ひと・しごとの法律ができました。この法律に基づいて各市町村で動いています。様々な地域振興の事業がありますが、法律に基づいて動き、しかも住民や事業者、学校の先生等の関係者が一同に参画する仕組みは、今もこれしかないと思います。しかし、11年前の状況と今の日本の前提が大きく変わっているのに、法律が追いついていません。当時はデフレも脱却できず、これほどまでに人手不足が課題となることは予測できませんでした。東京への一極集中も、当時はもう一極集中が止められないと思われていましたが、現在は移住してくる方が予測より多い状況にあります。そういった変化を前回のおいらせラボ部員の方々と精力的に意見交換をしていました。他にも、SDGs、環境保全もこの10年で出てきた話題ですし、外国人の移住も最近出てきた話題です。おいらせ町は人口減がそれほど切迫していませんが、この枠や前例にとらわれず、これからの10年、30年に向けたご意見、アイデアをいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
委員	例えば、もし皆さんがメールでやり取りできるのであれば、会議のペーパーレス化も検討してはいかがでしょうか。運営側も負担が軽減されますし、メールの方が良いという方もいると思います。お知らせからでも、ペーパーレスを検討してはいかがでしょうか。今後の提案として、皆さんがそれでよろしければ実施していただきたいです。
平井会長	他の市町村でも一部がペーパーレスという会議もありますので、今がちょうどペーパーレスの移行期だと感じています。委員の皆さんに確認しながら、紙でなくても良いという部分がありましたら、検討しても良いと思います。
委員	この会議について、大体は分かりましたが、具体的に何から進行していくのかが分からなかったです。新しい戦略会議の委員の提案と引き続き、前期の戦略を進行していくような形を考えているのでしょうか。
平井会長	戦略は昨年度に完成していて、5年間の計画で動いていくものです。委員の皆さんには、毎年戦略の進捗を確認していただきたいです。その際にネガティブチェックみたいな形式ではなく、情勢の変化あるいは現場の実態などについて、ご報告やご意見をいただきたいです。特に何か準備していただく必要はないのですが、普段から感じていることや悩んでいることなどを教えていただきたいです。前の委員の方からは、建設現場で働く女性の状況や高校への求人を出す際の課題等をご報告してもらいました。今後は商工会のメンバー等に目配りしていただき、会議の中の声をお伝えいただくと非常にありがたいです。
委員	提案が増えていくと、事務局の負担が増えるのかなと思っています。
平井会長	事務局が楽しんでやっていただけるように、負担感ができるだけ少ないように工夫していきます。

委員	資料の8ページで紹介のあった空き家を活用した地域の交流拠点づくり事業ですが、県の方でも市町村伴走支援事業として、今年度と来年度、平井教授にアドバイザーとしてご協力いただいております。世代間交流の創出として、例えばコーヒーショップと一緒に何か実施しては面白いのかなと思います。また、しもくばが事業者の空き家活用の今後のモデルケースとして、おいらせ町以外にも波及してほしいと思っております。先ほど、百石高校の志望者減の課題も出ていましたが、こちらも例えば、県と町で何か一緒にPRにご協力できることがあれば相談してほしいです。
平井会長	貴重なご意見ありがとうございます。先日しもくばでイベントを実施していましたよね。
委員	11月2日、おいらせ町の地域おこし協力隊員がしもくばで移住者交流会を実施しました。その際、参加者が自分でコーヒーを淹れる体験をしながら、移住を話題に交流を行っていました。
平井会長	しもくばで、参加者の子どもたち同士で遊んでいて、参加者たちはコーヒーを楽しみながら、交流できていたようですね。
委員	しもくばにいる駄菓子を販売するおばあさんが子どもたちを見てくれて助かりました。そこで気が付いたのですが、移住者交流会の間、参加者の旦那さんたちも子どもたちを見ていたのですが、その旦那さん同士でも交流していました。お母さんたちが自由にして、お父さんたちが子どもたちを見ている姿を見て、昔と逆になったと感じました。これはとても進んでいることではないかと思いました。普段子育てをしているお母さんたちが、少しの時間でも独身のときの感覚でやりたいことに取り組める町になったら素敵だなと感じました。
平井会長	今日紹介した提案事業にもあった未来のパスポートに、おいらせ町に来るとこのような暮らし方があることを発信しても面白いですね。
委員	昨年度まで県の本庁で実施していて、今年度から上北地域連携事務所で実施することになった事業の中に、上北地域管内の中学校・高校から希望のあったところに、地元企業の方を講師として派遣して、地元で働くことのやりがいや魅力を講話してもらう事業があります。生徒の県内定着や百石高校の志望者数減の対策にもつながります。もし、よろしければ来年度また募集段階でご案内させていただきます。
平井会長	ビオトープについてはいかがでしょうか。
委員	今年ブナパークにビオトープをつくりましたが、それだけでは減びてしまいますので、つくった後にどうするかが重要です。その点でビオトープを立ち上げた時に、百石高校の生徒と一緒に作り上げたことが非常に意味のあることであったと実感しています。現在目標が2つありまして、1つ目は百石高校と一緒にビオトープを育てていくことです。探求の時間等に興味がある生徒たちと一緒につくっていきたいです。この基本目標にもある「安心して暮らせる地域をつくる」にも関連しますが、卒業した生徒たちが町にUターンしたときにも寄ってもらえる、愛されるビオトープにしたいです。2つ目は青森県にお願いしたいのですが、県内に自然共生サイトがあります。第1号は青森駅横のビーチです。既に条件を満たしている部分もありますが、自然共生サイトの登録を目指していきたいので、ご協力をお願いしたいです。郷土愛にも繋がると思っていますので、引き続きよろしく申し上げます。

委員	<p>ブナパークについては生徒の活躍の場をいただいております。ビオトープをつくった後の長期的なビジョンも考えていたため、今回は1年生の生徒に頑張ってもらいました。彼らにとって地域の大事な場所として認識できるように関わってほしいと感じていますし、来年度以降も生徒同士でつないでほしいと考えております。しもくばについても生徒たちが自然に入っていたようで、安心しました。スマホ講座も自分たちがちょっと知っていることを提供するだけで、地域の役に立つのだと自信を持ってくれたのかなと思いました。また、今回は県の事業で、企業の方に百石高校に来ていただいて、企業の良さなどをワークショップ形式でお話していただく機会を設けたのですが、おいらせ町の住み心地がいいという保護者の考えが伝わっているためか、自宅から通える企業や大学、専門学校に行きたいと希望する生徒が多いです。おいらせ町の住み心地の良さ、アクセスの良さが百石高校生の県内定着の要因だと考えています。これは家庭科を担当する教員と話した際、高齢者に関する福祉の授業として、認知症サポーター等の勉強会を開くと、生徒の高齢者に対する理解の仕方も変わっていき、そういった勉強や進路に進みたいという生徒も増えるのではないかと思います。もしかすると、しもくばあたりで高齢者と交流しながら、授業をすると面白いのかなと思います。私が以前いた学校では、学校内にオレンジカフェをつくり、地域の高齢者の方に案内状を送ってみたところ、すごく好評で高校生との触れ合いのほかに何十年ぶりに学校に入ったことにすごく喜んでいました。しもくばと協力して何かやりたいなと考えています。</p>
平井会長	<p>ありがとうございました。最後に様々なことが動き出しています。しもくばやビオトープのように、アイデアからいろいろな受け皿になることもあるので、これから幅広く皆さんと考えていきたいです。来月はおいらせラボの部員を決めるため、事務局からご連絡しますので、ぜひ前向きにご検討いただきたいと思います。</p>

5. その他
なし

6. 閉会
※閉会する。(12:00)